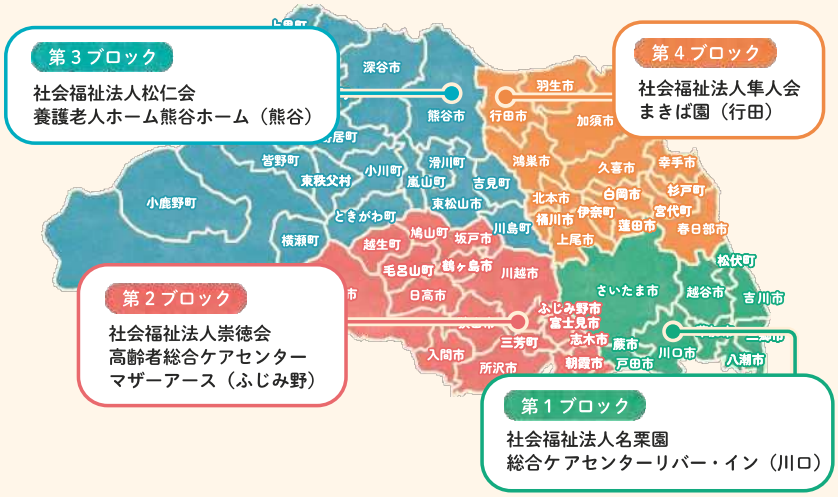
各地域で活躍している社会貢献支援員にお話を聞きました

社会貢献支援員とは

セーフティネット事業では、県内を４ブロックに分け、各ブロックに拠点施設を設置し、社会貢献支援員を配置しています。社会貢献支援員は相談者宅への訪問の同行や関係機関との調整、担当相談員への支援や助言等を行っています。



第１ブロック　熊木秀二さん（右下）
第２ブロック　久保英子さん（右上）
第３ブロック　小川清司さん（左下）
第４ブロック　出雲秀章さん（左上）

Q どのような思いで支援に携わっていますか？

出雲　相談機関に来所されることは、とても勇気がいることだと思います。以前、支援したケースで誰にも相談できず、こどもにお金がないことを悟られないように必死に戦っている母子世帯がいました。「だらしない母親と罵られるだけ」と思って相談に来られたそうですが、「他人のことなのに、こんなに親身になって話を聞いてもらえたことは、人生で初めてです。」と涙を流しながら色々と話をしてくださいました。社会福祉法人の代表として、相談者の立場に立って物事を捉え、最善のご提案ができるように寄り添った相談支援を行いたいです。

小川　相談者一人ひとりの背景は異なるので、ケースをパターン化せず、丁寧な対応を心がけています。また、ただひっ迫した状況を回避するだけでなく、その後の自立も意識して支援を行っています。

Q 関係機関の方々とはどのように連携を図っていますか？

久保　担当相談員の方が少しでも支援しやすいように各関係機関と調整を行うよう心がけています。また、各関係機関ができることを明確にすることで、円滑な支援と終結後の見守り体制の構築を図っています。

熊木　何でも相談し合える顔の見える関係性がとても重要だと思っています。出来る限り、会議へ参加したり、訪問したり、頻繁に情報共有をしています。

相談員や関係機関の方々へメッセージをお願いします。

相談者はつらい時期を過ごし、精神的にも追い込まれた状態で勇気を振り絞って相談に来られています。会員施設や相談機関の皆様の気づき、知識、相談者へ寄り添う姿勢が、課題解決に繋がっていくと感じています。相談者の自立に向けて一緒に考え、心温かい相談支援が行えるよう努力してまいりますので、どうぞ、皆様のお力添えを今後ともよろしくお願いいたします。